

2016 年度事業報告・決算報告

はじめに

2016 年度の事業計画で情勢の特徴を以下のように位置付けました。

日本は、戦後一貫して守り続けてきた平和主義の危機にあり、戦後最大の岐路に立っている。安倍政権は、戦争法の強硬採決を行い、辺野古への米軍基地建設を強行し、原発の再稼働を始め、社会保障を実質的に解体し、営利・市場化を進め、国民生活を犠牲にし、命を軽んじる政治を加速させている。

一方、3. 11 以降の原発再稼働反対の運動のころから始まった個人が主権として考え行動する、そして政治も変える自発的で新しい民主主義の形とその発展の中で、これまで政治に無関心といわれてきた学生や若いママ、女性達が次々と立ち上がり、国会前で、街頭で「平和を守れ」「勝手に決めるな」の大きな声を上げた。又、全ての都道府県弁護士会や多くの学者などが反対表明や行動を起こし戦争法反対の大きな流れが作られた。戦争法成立後国民の行動は止まらず、国民の声が政治を動かし、戦争法廃止、立憲主義を取り戻す政府を作る国民運動が開始されている。

2016 年度は、平和と憲法を守る運動を柱に、法人理念の「安心して住み続けられる街づくりの拠点」の役割を果たし、社会保障と税の大改悪、介護・保育・障がい児に関わる制度の改善等への闘いを進めるために奮闘する。

厚生労働省は 2016 年 7 月 15 日に「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部を設置し、17 年 2 月 7 日に「地域共生社会」の実現に向けてまとめました。介護保険の見直し、18 年度は介護障害福祉の報酬改定、生活困窮者自立支援制度の見直しなどの機会をとらえて具体的な改革を行うとしています。地域住民や市域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源、世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで、住民一人一人の暮らしと生きがい、地域を創っていく社会と定義しています。福祉サービスを必要としている地域住民を地域住民が把握し、関係機関と連携して解決する。財源は地域の民間資金の活用を推進する、この考え方を国の根幹とする中で社会福祉を市民、民間に丸投げし、行政としての役割・責任を放棄し、さらに悪化させるものです。

私たちは、平和憲法を守り、介護・保育・障がいの各分野で厳しい情勢と闘いながら「利用者・子どもの立場に立った」事業の維持・発展に努めました。

2016 年度は、下記を「重点項目」に据えて取り組んできました。

- ① 介護事業の安定的な運営
- ② 青い空保育園の運営と新体制の保育園運営
- ③ 利用者の立場に立つ質の高いサービスの提供
- ④ 制度にない福祉サービスの展開 社会福祉法人の力の見せ所
- ⑤ 各事業所の予算達成
- ⑥ 幹部職員の配置と育成、職員の雇用と育成と労働条件の整備
- ⑦ 社会保障制度を守り発展させる活動
- ⑧ 社会福祉法等の一部改正による組織整備、定款改正

これらの取り組みの詳細は、各事業所の報告を参照いただき「2016 年度事業・決算」の概要を以下の通り報告します。

1. 2016年度の決算概要

事業活動のサービス活動収益は14億4,980万円となり、前年対比でみれば5,300万円（前年比103.8%）の増収となりました。事業毎では、介護事業1,969万円（前年比102.8%）の増収、保育事業2,755万円（前年比104.7%）の増収、児童支援事業576万円（前年比105.6%）の増収、全ての事業で増収となりました。

当期活動増減差額は、保育事業・児童支援事業で黒字、介護事業で大きな赤字を計上しましたが、法人合計で3,284万円の黒字となりました。（予算は1,979万円、予算比165.8%）

保育事業は今年度より賞与引当金（2,126万円）を計上しました。

資金収支差額合計は、426万円の黒字に留まりました。今期の100万円以上の投資は、白い鳩保育園隣地購入2,512万円・園庭整備180万円、青い空保育園の園舎改修1,566万円、老健西の京ナースコール935万円、あらぐさ保育園の加圧給水ポンプ取替140万円で、固定資産取得支出の合計は6,843万円となり、事業活動資金収支差額4,336万円+積立金取崩2,850万円+銀行借入金1,300万円等で対応しました。

総資産は、25億4,624万円で前年度より2,019万円の増加となっています。

流動資産は、事業活動収支の結果、異動者の退職金の未収等で3,595万円の増加となっています。

固定資産は、建物、積立金等の増加、減価償却の差引で▲1,576万円の減少となっています。

負債は、7億3,504万円で前期より619万円の増加となっています。退職金の未払い等があります。今期新たな借入金は、青い空保育園の改修費用として京都銀行から10年返済で1,300万円の借入れを行ないました。固定負債の長期借入金返済は予定通り4,198万円の返済をおこなっています。

純資産は、当期活動収支差額3,284万円の黒字、国庫補助金の償却減等の結果、1,399万円の増加で、18億3,166万円となりました。

<貸借対照表>

単位:万円

法人合算	2016年度	前期比	前期差額	2015年度
総資産	254,624	100.8%	2,019	252,605
流動資産	67,960	105.6%	3,595	64,364
固定資産等	186,664	99.2%	▲1,576	188,240
負債	73,504	103.8%	619	70,837
流動負債	20,168	137.3%	5,481	14,687
固定負債	51,289	91.3%	▲4,861	56,150
純資産	183,166	100.8%	1,399	181,767
次期繰越活動差額	80,853	102.1%	1,634	79,219
内当期活動差額	3,284	30.2%	▲7,607	10,891

<事業活動計算書 事業別 前年対比>

単位:万円

	合 計	本部	介護事業計	保育事業計	児童支援事業計
2016年度 収益計	144,980	0	73,026	61,043	10,911
2015年度 収益計	139,680	0	71,057	58,288	10,335
収益計 前年差額	5,300	0	1,969	2,755	576
前年比率	103.8%		102.8%	104.7%	105.6%
2016年度 費用計	142,461	3,497	73,458	56,759	8,747
2015年度 費用計	134,237	2,305	69,466	53,790	8,676
費用計 前年差額	8,224	1,192	3,992	2,969	71

前年比率	106.1%	151.7%	105.7%	105.5%	100.8%
2016 年度 当期増減差額	3,284	338	▲ 1,946	3,369	1,520
2015 年度 当期増減差額	10,890	666	783	8,542	899
当期増減差額 前年差額	▲ 7,609	▲ 328	▲ 2,729	▲ 5,173	621
前年比率	30.1%	50.8%	-248.5%	39.4%	169.1%

2. 各分野の事業報告と決算状況

(1) 介護事業

老健西の京では、現場と管理の間で様々な要因により管理としての役割が果たせず、介護士長、看護師長、事務長のトップ人事交代がありました。新しい管理委員会は、西の京の進むべき方向や直面する課題を共有し互いの役割を補い、管理集団として前進することを大事にして、日々の管理運営に当たり、その中で一番の使命は、西の京のポジションングを明確にし「地域になくてはならない存在」として西の京が存続・発展できる基盤をつくる事、そして、それを担う次世代の職員の育成にある事と奮闘しています。入所は、管理運営問題も反映し前半期はベッド稼働率が 90%を切る事態でしたが、職員の協力の下、「入所申込みは断らない、空床は埋める運用を進め」年間平均 94.3%、最高時（2月）は 98.0%のベッド利用率となりました。一方、通所リハビリ、居宅支援事業、配食サービスは前年度マイナスとなっています。

特養都和のはなでは、老健西の京の管理者人事に伴い施設長交代がありました。その新体制を支える職員間の協力体制で事業を展開してきたこと、入所者の誤嚥性肺炎や尿路感染症などの予防を日々のケアの中で重視したこと、集団で事故対応対策を進めることなど、「みんなの笑顔があふれる」を中心に様々な取り組みを進めてきました。入所の稼働率は 95.5%、死亡4名、入院延べ日数 298 日という状況でした。

グループホーム都和のはなも特養同様に管理者を変更しました。稼働率は 99.3%(目標 97%、昨年の稼働率 95.4%)で、この 1 年間入居者の出入は無く安定して過ごすことが出来た年でした。職員体制の特徴として、非常勤賃金改定の功もあり派遣職員 2 名の方が非常勤職員へと身分変更し、継続して働いています。

ケアステーション虹の家は、居宅介護支援は目標 63 件に対し月平均 60.6 件（前年比 100%）、訪問（予防）介護は目標 47 件に対し 41 件（前年比 96.6%）に留まりました。入院や施設入所で上半期は厳しかったが、下半期で初めての居宅支援事業所からの依頼もある等 3 月は目標の 47 件に到達しています。

	科目	16 年度実績	構成比	15 年度実績	前年比
特養都和のはな	収益合計	9,789	100.0%	9,149	107.0%
	人件費	6,731	68.8%	6,577	102.3%
	事業費	1,227	12.5%	1,189	103.2%
	事務費	665	6.8%	656	101.4%
	費用合計	9,425	96.3%	9,229	102.1%
	サービス活動増減差額	363	3.7%	△ 79	-459.5%
	経常増減差額	254	2.6%	△ 147	-172.8%
	当期活動増減差額	8	0.1%	△ 255	-3.1%
老健西の京	収益合計	55,920	100.0%	54,480	102.6%
	人件費	38,978	69.7%	37,035	105.2%
	事業費	7,206	12.9%	7,456	96.6%
	事務費	7,441	13.3%	6,836	108.9%

	費用合計	56,718	101.4%	53,388	106.2%
	サービス活動増減差額	△ 798	-1.4%	1,092	-73.1%
	経常増減差額	△ 777	-1.4%	1,463	-53.1%
	当期活動増減差額	△ 1,833	-3.3%	562	-326.2%
GH都和のはな	収益合計	4,634	100.0%	4,647	99.7%
	人件費	3,579	77.2%	3,155	113.4%
	事業費	538	11.6%	504	106.7%
	事務費	340	7.3%	506	67.2%
	費用合計	4,710	101.6%	4,412	106.8%
	サービス活動増減差額	△ 75	-1.6%	235	-31.9%
	経常増減差額	△ 121	-2.6%	211	-57.3%
	当期活動増減差額	△ 183	-3.9%	151	-121.2%
虹の家	収益合計	2,681	100.0%	2,779	96.5%
	人件費	2,297	85.7%	2,152	106.7%
	事業費	82	3.1%	59	139.0%
	事務費	212	7.9%	213	99.5%
	費用合計	2,603	97.1%	2,436	106.9%
	サービス活動増減差額	77	2.9%	342	22.5%
	経常増減差額	77	2.9%	345	22.3%
	当期活動増減差額	62	2.3%	325	19.1%
合計	収益合計	73,024	100.0%	71,055	102.8%
	人件費	51,585	70.6%	48,919	105.4%
	事業費	9,053	12.4%	9,208	98.3%
	事務費	8,658	11.9%	8,211	105.4%
	費用合計	73,456	100.6%	69,465	105.7%
	サービス活動増減差額	△ 433	-0.6%	1,590	-27.2%
	経常増減差額	△ 567	-0.8%	1,872	-30.3%
	当期活動増減差額	△ 1,946	-2.7%	783	-248.5%

決算の特徴は、サービス活動収益で、特養都和のはなは前年比 107.0%の増収、老健西の京は 102.6%の増収、GH都和のはなは 99.7%の減収、虹の家は 96.5%の減収、合計で 102.8%、1,969 万円の増収となりました。

当期活動増減差額は、特養都和のはなは 8 万円の黒字、老健西の京は▲1,833 万円の赤字（収益不足・管理者の退職による退職金等の人件費をはじめとした費用の増加が主な要因）、GH都和のはなは▲183 万円の赤字（常勤体制 2→3 などによる費用の増加）、虹の家は 62 万円の黒字、合計で▲1,946 万円の大きな赤字となりました。

（2）保育分野

保育分野にかかわる大きな特徴は、1 点目は青い空保育園 2 年目の運営で公立保育士が完全撤退し、当法人の実質的運営となったことと環境改善に取り組んだこと、2 点目は 2 か園の園長・主任が交代となったこと、3 点目が人材確保の難しさ、4 点目が新制度に伴い前年以上の事務に忙殺されました。

青い空保育園は、5 年間公立保育所の保育を引き継ぐ形でスタートし 1 年目は京都市職員が残る中、助言や指導を受

けながらの保育でしたが、2年目はこれまでの保育を引き継ぎながらも青い空としての保育を行ってきました。少しずつではありますが、楽しい保育を保護者にも伝え（写真の掲示など保育の見える化）保護者と保育士で子ども達の成長を喜びあえるよう三者協議会や保護者会の役員との懇談をするなど信頼を得られるよう努力してきました。合わせて環境を整えることで保育の質の向上にも努めてきました。保育内容について京都市からは高評価をいただき確信を持つことができました。

2点目は、園長交代主任交代が2か園（洛西、あらぐさ）でありました。現場優先となり主任は保育に入ることが多く、保育全体の運営を行うにあたって、事務所会議を行う時間を作ることができなかったことが反省としてあります。

3点目は、途中退職、病休、産休とある中での人材確保です。ハローワークに出すだけでは見つからず派遣や短時間のパートや学生で何とかつないできましたが、公休を入れるだけで精一杯のこともあり、職員会議は残業にするなどで対応してきました。

4点目は、新制度では、京都市加算が増えたことはいいのですがそのための事務作業や延長保育での事務作業が増え前年以上に追われる一年でした。

各園の入園状況延べ人数は、白い鳩保育園 1,559 名（1 か月平均 129.9 名、前年度比 101%）洛西保育園 1,751 名（1 か月平均 145.9 名、前年度比 98・9%）あらぐさ保育園 683 名（1 か月平均 56.9 名、前年度比 100%）青い空保育園 768 名（1 か月平均 64 名、前年度比 103.3%）となりました。

白い鳩保育園では、園庭拡張のために購入した土地の一部を地域の要求であった道路拡張のために京都市に寄付をするという社会福祉法人としては初めての事となりました。園庭として広がったことで次の展開を考えていきたいと思えます。

洛西保育園では、受け入れ人数が 120%超えですが、当面の間緩和されているため受け入れてきました。園長主任の交代と保育現場が 20 代から 30 代前半が多い中で保育に対する不安が出始め主任が保育に入る状況が年間通してありました。また、きょうと福祉人材育成認証では洛西で整備し認証をとることができました。第三者評価を受ける中で保育の確認ができ新たな課題も見えてきました。

あらぐさ保育園では、園長・主任の交代があり、病休産休で人材確保の難しさと休暇の取れない状況が続き主任は現場に入り超勤対応で乗り切ることができました。

青い空保育園は、障害児認定された子どもが 11 名と 17%に当たる子ども達が認められました。保育は総動員で対応する中で一つ一つ丁寧なかかわりの中で保育を積み重ね楽しい経験をする中で子ども達は落ち着きを見せ、ルールを守る姿も見られるようになりました。

保育園	科目	16 年度実績	構成比	15 年度実績	前年比
白い鳩保育園	サービス活動収益	17,836	100.0%	16,920	105.4%
	サービス活動費用	17,293	97.0%	15,948	108.4%
	人件費	14,690	82.4%	13,446	109.3%
	事業費	1,396	7.8%	1,381	101.1%
	事務費	740	4.1%	685	108.0%
	サービス活動増減差額	542	3.0%	971	55.8%
	経常増減差額	704	3.9%	2,405	29.3%
	当期活動増減差額	298	1.7%	2,970	10.0%
	賞与引当金（開始）	630			
洛西保育園	サービス活動収益	20,965	100.0%	21,267	98.6%
	サービス活動費用	19,053	90.9%	18,840	101.1%

	人件費	15,774	75.2%	15,546	101.5%
	事業費	1,812	8.6%	1,820	99.6%
	事務費	698	3.3%	737	94.7%
	サービス活動増減差額	1,911	9.1%	2,427	78.7%
	経常増減差額	2,739	13.1%	3,169	86.4%
	当期活動増減差額	1,594	7.6%	3,430	46.5%
	賞与引当金（開始）	706			
あらぐさ保育園	サービス活動収益	11,605	100.0%	10,512	110.4%
	サービス活動費用	10,233	88.2%	10,468	97.8%
	人件費	8,693	74.9%	8,882	97.9%
	事業費	801	6.9%	819	97.8%
	事務費	502	4.3%	511	98.2%
	サービス活動増減差額	1,371	11.8%	43	3188.4%
	経常増減差額	1,481	12.8%	1,514	97.8%
	当期活動増減差額	1,271	11.0%	1,252	101.5%
	賞与引当金（開始）	393			
青い空保育園	サービス活動収益	10,636	91.7%	9,587	110.9%
	サービス活動費用	10,177	87.7%	8,532	119.3%
	人件費	8,528	73.5%	7,046	121.0%
	事業費	930	8.0%	823	113.0%
	事務費	572	4.9%	577	99.1%
	サービス活動増減差額	459	4.0%	1,055	43.5%
	経常増減差額	534	4.6%	1,080	49.4%
	当期活動増減差額	206	1.8%	888	23.2%
	賞与引当金（開始）	397			
合計	サービス活動収益	61,043	100.0%	58,286	104.7%
	サービス活動費用	56,759	93.0%	53,788	105.5%
	人件費	47,686	78.1%	44,920	106.2%
	事業費	4,940	8.1%	4,843	102.0%
	事務費	2,513	4.1%	2,510	100.1%
	サービス活動増減差額	4,284	7.0%	4,496	95.3%
	経常増減差額	5,459	8.9%	8,168	66.8%
	当期活動増減差額	3,370	5.5%	8,540	39.4%
	賞与引当金（開始）	2,126			

決算の特徴では、サービス活動収益は、白い鳩保育園前年比 105.4%、洛西保育園 98.6%、あらぐさ保育園 110.4%、青い空保育園 110.9%となり、全体で 2,757 万円の増収となりました。全体的には保育委託費単価の増によるものです。あらぐさ保育園は新加算のチーム加算（平均勤続年数が 15 年以上）が約 600 万円取ることが出来ました。

当期活動収支差額は、白い鳩保育園（298 万円の黒字）、洛西保育園（1,594 万円の黒字）、あらぐさ保育園（1,271

万円の黒字)、青い空保育園（206万円の黒字）、合計で3,370万円の黒字（予算比658.2%）となりました。

（3）児童支援

利用者の特徴は、幼稚園児より保育園児の平行通園が多く、働く保護者が増えたこともあり、土曜日の療育を希望し、週1回の療育が増えてきました。在宅であっても、児童館、保育園の一時保育や幼稚園のプレに登録している家庭が増え、欠席が多い時に登園してもらうことが難しくなってきました。また、保育園の巡回保育の充実に伴い年長児の療育希望者が増えてきています。

児童発達支援事業では、事業所が増え、京都方式に入っている施設と入っていない事業所があり、放課後等デイサービスが午前の空いた時間に幼児対象の療育を行うところも出てきています。発達検査が7か月待ちで追いついていないことで療育の待機がない状況になっています。その前の段階で多くの方が待っている状況で、早期に療育を受けたい人には、発達相談所が民間事業所を紹介することが増えてきています。放課後等デイサービスでは、60数か所まで増えてきている中で、複数の放課後等デイサービスを利用している家庭が増えてきています。

子育て支援では、保健センターの親子教室「こあらっこ」に参加していますが、期間が決まっていることもあり、終了後見通しが見えず不安を抱えている状況が起こっています。今後支援の継続を図ることが求められています。

児童相談支援は事業所としては存在するが、児童の計画相談を実施しているところは少なく、パーチェの相談支援は、京都市内になかで質量ともに高い評価を得ています。京都方式は実質崩壊状況にある中で、今後の制度運用について京都市全体での議論を求めるものです。子どもが、どここの場所でも安心して過ごせるよう関係団体で、発達支援で話し合える等つながりを模索していきたいと思います。

利用状況は、パーチェ年間3,147名（1日当たり10.8名、前年度比率102.9%）、第二パーチェ年間2,724名（1日当たり9.4名、前年度比率102.9%）、パーチェ梅小路年間2670名（1日当たり9.2名、前年度比率99.0%）、相談支援パーチェ計画相談255件（月平均21.25件、前年度月平均11件）モニタリング185件（月平均15.4件、前年度月平均7件）となっています。

	科目	2016年度	構成比	2015年度	前年比
パーチェ	サービス活動収益	3,783	100.0%	3,689	102.5%
	サービス活動費用	3,295	87.1%	3,296	100.0%
	人件費	2,555	67.6%	2,526	101.2%
	事業費	64	1.7%	81	79.0%
	事務費	647	17.1%	650	99.5%
	サービス活動増減差額	487	12.9%	392	124.2%
	経常増減差額	498	13.2%	401	124.2%
	当期活動増減差額	256	6.8%	147	174.1%
第二パーチェ	サービス活動収益	3,296	100.0%	3,186	103.5%
	サービス活動費用	2,462	74.7%	2,592	95.0%
	人件費	1,721	52.2%	1,838	93.6%
	事業費	69	2.1%	76	90.8%
	事務費	624	18.9%	630	99.0%
	サービス活動増減差額	834	25.3%	593	140.6%
	経常増減差額	900	23.8%	602	149.5%

	当期活動増減差額	658	20.0%	333	197.6%
パーチェ梅小路	サービス活動収益	3,195	100.0%	3,221	99.2%
	サービス活動費用	2,457	76.9%	2,588	94.9%
	人件費	1,973	61.8%	2,067	95.5%
	事業費	65	2.0%	84	77.4%
	事務費	385	12.1%	409	94.1%
	サービス活動増減差額	738	23.1%	633	116.6%
	経常増減差額	741	23.2%	634	116.9%
	当期活動増減差額	501	15.7%	378	132.5%
児童相談支援 パーチェ	サービス活動収益	636	100.0%	237	268.4%
	サービス活動費用	532	83.6%	198	268.7%
	人件費	420	66.0%	120	350.0%
	事業費	1	0.2%	1	100.0%
	事務費	101	15.9%	72	140.3%
	サービス活動増減差額	103	16.2%	38	271.1%
	経常増減差額	103	16.2%	38	271.1%
	当期活動増減差額	105	16.5%	38	276.3%
合算	サービス活動収益	10,911	100.0%	10,333	105.6%
	サービス活動費用	8,747	80.2%	8,674	100.8%
	人件費	6,670	61.1%	6,551	101.8%
	事業費	201	1.8%	242	82.2%
	事務費	1,759	16.1%	1,761	99.8%
	サービス活動増減差額	2,164	19.8%	1,656	130.6%
	経常増減差額	2,243	59.3%	1,675	133.9%
	当期活動増減差額	1,521	13.9%	896	169.6%

決算の特徴は、サービス活動収益で、パーチェは前年比 102.5%、第二パーチェは前年比 103.5%、パーチェ梅小路 99.2%、相談支援パーチェは前年比 268.4%、合計で前年比 105.6%（576 万円の増収）となりました。

当期活動増減差額は、パーチェ 256 万円、第二パーチェ 658 万円の黒字、パーチェ梅小路 501 万円の黒字、相談支援事業パーチェ 105 万円、合計で 1,521 万円の黒字（予算比 210.1%）となりました。

3. 法人運営

①理事会の出席率は 98.8%（前年度 100%）、評議員会は、85.2%（前年度 91.1%）となりました。参加率が下がっているため改善の必要があります。

②毎月定期的に法人事務局会議（理事長・常務理事・介護事業部長・保育事業部長・児童支援事業部長で構成）を開催し、各分野の推移と課題の対応、稟議決裁、労働組合の対応、管理運営の向上を図りました。

理事長が常駐になったことで、法人機能の強化を進めてきました。10 年後を見据えた今後 5 年間の長期計画の作成することができました。現状と今度を見据えながら具体化を図っていきます。また、洛西保育園中心に「きょうと福祉人材育成認証」をとることができました。この制度を利用して人材確保と育成のために活用しながら、更新、上位認証を目指し今後も取り組んでいきます。

③各分野で介護事業部会議、保育部会議、児童支援事業管理者会議などを開催し、事業分野ごとの運営の向上を図りま

した。

介護事業部は、西の京の管理運営問題、各事業所報告と課題対応、安全管理・苦情報告と対応、人事、各事業所の総括会議、各種委員会の取り組み、労働組合対応等を進めました。

保育事業部は、各園の事業報告と課題の対応、安全管理・苦情報告と対応、合同採用面接、新制度への対応、役員会議、給食委員会の定期開催、合同研修会の開催、労働組合対応等を行いました。

児童支援事業は、各事業所報告と課題の対応、安全管理・苦情報告と対応を行いました。

④今期行われた行政監査（指摘事項）は以下の通りです。

保育園 白い鳩、洛西、あらぐさ：プールの水代実費とし上回る分については還元すること

白い鳩、洛西：250万円を超える工事は、競争入札をすること

4. 積立金と利益処分の提案

（1）保育園の積立金の提案

決算において、白い鳩・洛西・あらぐさ保育園は、「修繕費積立金」を以下のように行います。

事業所	修繕積立	その他積立	合計	①	②
白い鳩保育園	7,000,000	0	7,000,000	4.7%	28.5%
洛西保育園	28,000,000	0	28,000,000	12.9%	29.6%
あらぐさ保育園	10,000,000	0	10,000,000	13.6%	15.1%
青い空保育園	0	0	0	1.0%	2.7%
積み立て合計	45,000,000	0	45,000,000		

①当期資金収支差額＋各種積立金／事業活動収入（決算額） 5%以内 超えた場合は収支分析計算書の作成

②当期末支払資金残高／運営費収入 30%以下

（2）利益処分の提案

	法人合算
今期繰越利益(欠損)	32,843,121
今年度積立金取崩	28,500,000
今年度積立金	45,000,000
次期繰り越利益	16,343,121

以上